

平成29年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
農産・蚕糸部門

「コウノトリ育む農法」による大豆の高付加価値化と多収化の取組

○氏名又は名称 中谷農事組合法人（代表 小島 昭則）

○所在地 兵庫県豊岡市

○出品財 経営（大豆）

○受賞理由

・地域の概要

豊岡市は、兵庫県の北東部に位置し、北は日本海、東は京都府に面している。日本海型気候であり、1年を通じて寒暖の差が大きく、冬期は降雨や降雪の日が多い。また、重粘土壌・低湿地地域であり、市の中心を流れる円山川の流域は穀倉地帯「六方たんぼ」の一角を成している。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

昭和63年の大区画ほ場整備の完成を契機に、中谷地区33戸の農家で一集落一農場方式による「中谷営農組合」を設立。規模拡大とともに平成10年に法人化し、現在はブロックローテーションにより、大豆15.9ha、水稻46.6ha、小麦15.9haを作付けしている。

・受賞者の特色

（1）環境に配慮した「コウノトリ育む農法」による大豆の生産

兵庫県と豊岡市が普及拡大を進める「コウノトリ育む農法」に取り組み、慣行栽培と比べ、化学合成農薬75%低減・化成肥料不使用等の環境に配慮した「コウノトリ大豆」を生産。

（2）低湿地地域における多収化の実現

当地域は湿害に悩まされていたが、FOEAS（地下の排水・灌漑の両機能を備えたシステム）の活用による排水対策や日本海型気候に適した早生品種への転換等に取り組み、平成28年産の単収は186kg/10aと地域の慣行栽培（65kg/10a）を大きく上回る多収化を実現。

（3）高付加価値化による収益の確保

「コウノトリ大豆」については農協を通じて実需者と契約栽培しており、その販売単価は315円/kgと通常の約2倍の単価で取引し、高付加価値化が図られている。

・普及性と今後の発展方向

環境に配慮した農業と大規模法人経営を両立した優良な経営事例であり、他地域からの現地視察も積極的に受け入れるなど、技術の普及に関する貢献度は高い。

今後は、周辺地区の高齢化により農地の引受増加が見込まれることから、付加価値が高い「コウノトリ育む農法」による大豆等の面積拡大を進めていく。